

東海道五十三次道中紹介（箱根路編）

工 39 市村正明

喜寿を挟んで歩いた東海道五十三次、記録写真集についてはまえおきで紹介しました。

今回から箱根路の道中紹介記事をシリーズで紹介していきます。まずは第一区分の箱根路を掻い摘んでご紹介して行きます。ホームページの容量の関係で3分割して投稿します。



箱根路編（日本橋～三島間）

日本橋から三島間を十三回で歩き繋いだものです



第1回 日本橋～品川間

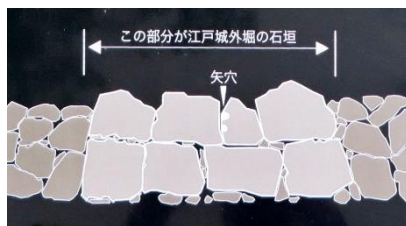
この区間は日本橋から国道15号線（第1京浜国道）、銀座通り（中央通り）を新橋方面に向い品川まで辿るコースです。この間は近代化された商業の中心地、銀座通りから始まるので旧東海道の歴史的なものがどのように残されているか興味津々だった。

まずは東京駅日本橋口から出発した。すると東京駅に隣接する東京丸の内トラストタワーの所に遠山の金さんが業務した**北町奉行所跡**があった。トラストタワー建設の際に北町奉行所の上水道、井戸、屋敷境等の遺構が発見されており、その下水溝の一部が建物沿いに移築されて展示されていた。実際の場所は30m離れたトラストタワーのビルの下である。



また、ビル脇には鍛冶橋付近から発掘された江戸城の石垣の一部もビル建物の通路に展示されていた。

これらの遺構を手掛かりに歴史を辿る難しさは大変なものだろうなと思いつつ旅をスタートした。



北町奉行所は「遠山の金さん」こと遠山左衛門尉景元が天保 11 年～14 年（1840～1844）奉行として執務していた所である。

南町奉行所は数寄屋橋御門の近く（現有楽町駅付近）にあり大岡越前守忠相が享保 2 年（1717）～元文元年（1736）奉行として執務していた。

ビルの合間を出て呉服橋交差点に出る。ここには江戸時代呉服橋御門があり前に外堀があった。現在は埋め立てられて外堀通りとなっている。

交差点を左折するとすぐに外堀と日本橋川が分岐するところに一石橋がある。



橋名の由来は
両岸の後藤（五斗）さん（北の幕府金座御用の後藤庄三郎、南の幕府御用呉服所の後藤縫殿助）の名前を合わせて一石（五斗+五斗）にしたという。

昔の人の遊び心を感じたと同時に橋の由来から御門の前に重要な商人が居を構えていたことが垣間見えた。



古地図による付近の概要説明

橋を渡ると右前方に日本銀行の本店が見える。この建物は上から見ると円と云う字になっている。

ここは江戸時代の金座跡で金座の向かいに本両替町があった。金融の中心は今も引き継がれている。



日本銀行本店前から三越へ、右折すると東海道五十三次の起点である日本橋である。

いよいよ**東海道五十三次**の出発である。



日本橋

出発点の**日本橋**は家康が開幕時の慶長 8 年 (1603) に架橋し五街道 (東海道、中山道、甲州道中、日光道中、奥州道中、) の起点としたところで、北詰右岸の橋の袂に日本国道路元標、東京市道路元標の展示がある。



日本国道路元標



橋の中央の道路元標は昭和 42 年 (1967) に都電が廃止され柱からプレートに変更されて道路中央に埋められた。プレートの文字は当時の総理大臣佐藤栄作の筆である。

現在の**日本橋**は明治 44 年 (1911) に架けられた石造 2 連アーチの道路橋で、橋銘は 15 代将軍徳川慶喜の筆、青銅の照明灯装飾品の麒麟は東京市の繁栄を獅子は東京都の守護を表している。

徳川時代の初代と十五代という因縁を感じた。



中央柱の麒麟



親柱の獅子



日本橋魚河岸跡

日本橋北詰左岸には**日本橋魚河岸跡**の掲示あり、日本橋川沿いに魚河岸があつて日本橋付近は物流でも大変賑わったことを知る。

また、日本橋南詰め右岸には立派な高札場を模した掲示がある。右岸も左岸も普段全く気にしていなかったところである。



日本橋南詰右岸高札場

歌川広重の東海道五十三次の内日本橋図 (左図) には日本橋を渡った所の高札場前を魚河岸で仕入れた魚を棒手振り達が売りに出る様子とか橋の中央には大名行列が出立する風景が描かれている。幕末から明治初期に歌われた東海道五十三次の宿場を読み込んで歌った俗謡「お江戸日本橋七つ立ち (午前四時頃)、初めり行列そろえてあれわいさのさ・・・」と歌われているように夜の明けきらぬうちから出発した様が伺える。



日本橋 雪晴



じっくりと日本橋周りを見ると日本橋だけでも多くの情報がある。

日本橋から旧東海道だった銀座通りを歩き始めると右側に千疋屋があるが左側の路地 (昔の大鋸町) の左側に**歌川広重旧宅跡**があつた。ここで歌川広重は晩年の約 10 年を過ごしたという。広重の代表作「名所江

「戸百景」はこの地で描かれたものである。現在はビル壁に中央区教育委員会発行の掲示がある。また隣には幕府の奥絵師狩野四家の内の中橋狩野家屋敷があったとある。

日本橋から京橋までの両側は古地図の町名から大工、樽、檜物、鍛冶、鋸、具足、塗師等の職人の街だったのだろう、歌川広重も大鋸町で居心地よく生活していたのだろうと想像しながら歩くのも楽しい。

さらに進んで八重洲通との交差点の中央分離帯の中央部に**八重洲の地名の由来**になったヤン・ヨーステンの説明銘板がある。彼は家康の国際情勢顧問や通訳として徴用され、この付近に邸宅を与えられた。

これは気を付けて見ないと通り過ぎてしまう。歩きでないと確認できないものである。



京橋あたりには**江戸歌舞伎発祥の地碑**、**京橋大根河岸青物市場跡の石碑**がある。ここは外堀にも通ずる水運の良い京橋川があり昭和 10 年築地に移設されるまでであったという。

江戸歌舞伎は寛永元年（1624）中村勘三郎（初代）が江戸の中橋南地（現在の京橋）に創設したのが江戸歌舞伎の始まりである。



京橋大根河岸青物市場は寛文 4 年（1664）に水運の良い京橋川に野菜の売場が設けられた。昭和 10 年（1935）に築地に市場が移されるまで続いた。



銀座には**銀座発祥の地碑**がある。江戸幕府が銀鑄造所を駿府からこの地に移した。銀鑄造所界限を慶長 17 年（1612）に新両替町 1 丁目から 4 丁目（今の銀座 1 丁目から 4 丁目まで）がつけられ、通称銀座と呼ばれ銀座界限の本両替町と共に賑わった。

通称銀座と呼ばれていたのだが明治になって正式に銀座となった。

参考：銀座から東海道を外れて有楽町駅の交通会館前の**南町奉行所跡**を訪ねるのもお勧めである。

南町奉行所は宝永 4 年（1707）に常盤橋門内から数寄屋橋門内に移転幕末までこの地にあった。石組み下水溝が展示されている。

ここは**大岡越前守忠相**が享保 2 年（1717）～元文元年（1736）奉行として執務していた。



東海道に戻り新橋まで進むと天ぷらで有名な「天国」の側に**芝口御門跡の石碑**がある。